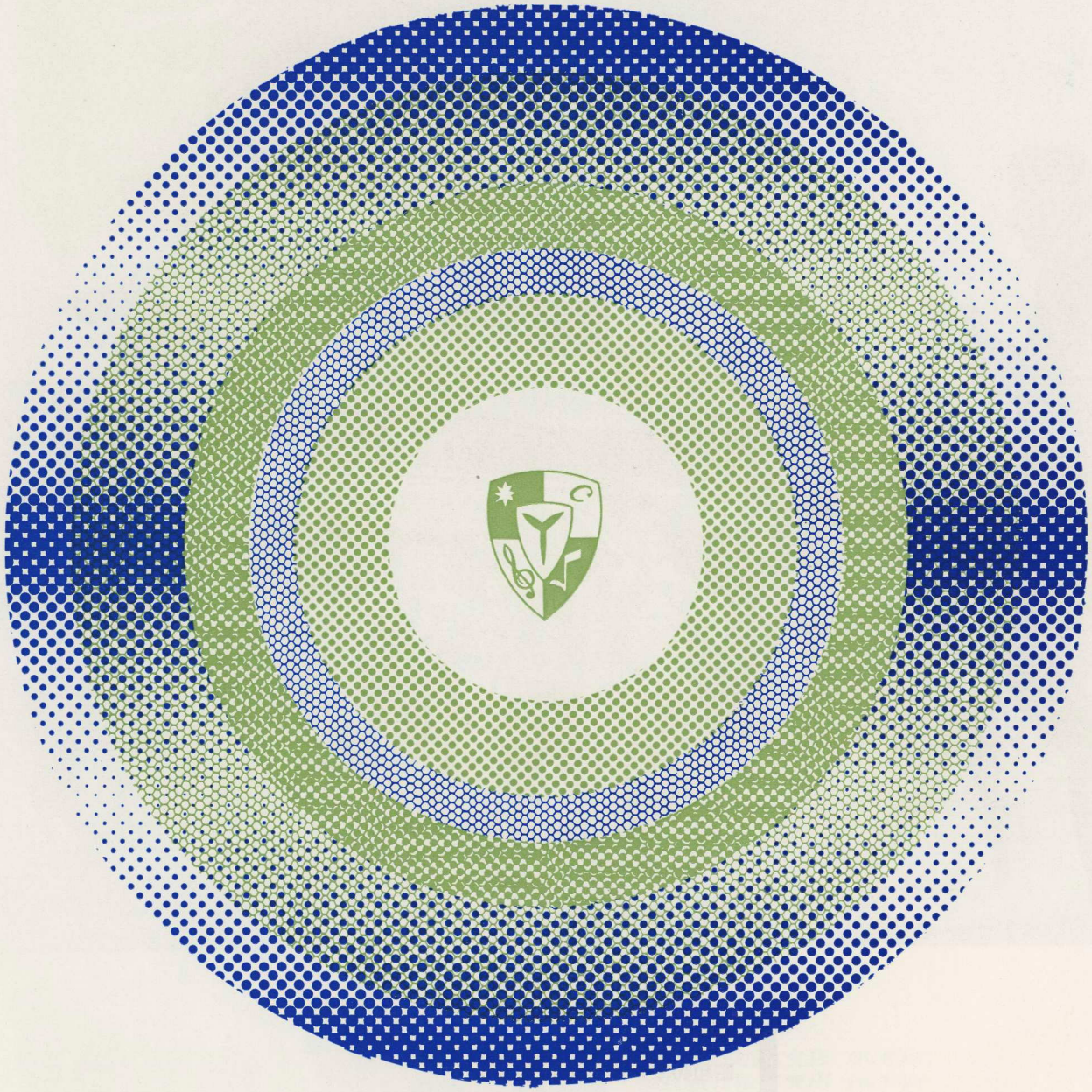

TALENT EDUCATION

才 能 教 育

日時・場所

□

昭和40年3月27日（土）
午後1時30分
東京都体育館

□

主催／才能教育研究会
後援／東京都

□

March 27, 1965
1 : 30 P. M.
The Tokyo Gymnasium
Sendagaya
Tokyo

名誉会長　徳川義親
Hon. President
Mr. Y. Tokugawa

会長
鈴木鎮一
President
Mr. S. Suzuki

挨拶

■才能教育とは ／ 会長　鈴木鎮一

われわれ人類が，人間自身の能力の問題について，昔から生れつきだ，遺伝だと考え，信じてきたことは誤りであり，その考えを訂正し，人間能力開発の教育法をつくり，どの子供も，人間本来のすばらしさを開発すべきであることを社会に訴える運動が，私共の才能教育運動であります。
どのベビーにも，与えられている人間本来の高い可能性を，ほんとうに知る親でなければならない筈だと思います。
苗が育て害ねられた場合，その運命がみじめなものであると同じように，子供達の大多数がベビーからすでに育て害ねられて，みじめな姿，人間本来の能力が開発されていない人間にさせられてしまっている世界の実体を，私共は，はっきりと知り目覚めなければならぬと考えます。
気がついてみれば，私共は，害ねられて能力が開発されなかった子供達をみて，
　「生れつきなのだ」
と思い誤っていたのです。
苗を立派に育てれば，そのものの本来の姿が立派に示される運命をたどってゆくことと同じに，人の子も，ベビーから正しく育てられるならば，どの子供も人間本来の立派な能力を発揮する人間となってゆく筈です。
　「才能は生れつきではない」
才能も要するに人間の能力であります。人間の能力は一体，どのような条件によって育つものであるか。どのような条件によって人間形成がなされてゆくものであるか。ということを追求した私は，「才能は生れつきではない」ということを知ったのです。
そして，音楽の場合には，どのようにすれば，優れた音楽のセンスが育ち，どのようにすれば演奏の能力が育つかということを知ったので，私共の日本に於ける才能教育，六千人の幼少年に音楽の才能を育てる実証運動が展開されてきたのであります。
その結果は，世界の音楽界の驚異となってきたのです。どの子も育つ，しかも育て方ひとつで三，四，五才の幼児が驚くような能力を発揮して育ってゆくのです。私のこの運動は，五年前頃からアメリカにも共鳴者が現われ，今日ではアメリカの各地に才能教育の教室が始ってきました。
この新しい人間能力開発の運動が，やがて全世界に広がってゆくことでしょう。然し，今はまだ，僅かに音楽の場合に於ける開発運動が始まったばかりに過ぎないのです。何れあらゆる能力の開発の途が拓かれるときが来るのも近いことでしょう。何故ならば，
才能は生れつきではないことが実証されてきたし，又，どうすれば総ての子供の能力が育ってゆくかということも，はっきりと解ってきたからです。
特定の文化的能力の素質というようなものが生れつき存在するのではなく，
　「生きようとする生命活動が，その環境に適応して能力を獲得し，人間形成をしてゆくものである。」
という私の説は正しく，今や，ヴイチタ大学の生理学部長，プロンコ博士によって実験され，一昨年アメリカの学会で発表せられました。
ベビーの頃から，音痴の音楽，音程はずれの歌を毎日唱って育てられる総ての子供は，音痴の人となり，優れた名曲を一曲選んで，毎日その同じレコードをきかせて育てたベビーは，皆音楽的に優れたセンスの人となってゆく事実は，私共の十九年に亘る数百名の子供達の実験によって明らかになりました。
従って，才能教育の音楽教育では，
1. 聞かせてセンスを育てる教育
2. 演奏する能力を育てる教育

との二つを，必らず並行して行なっているのです。
音楽的センスの育成は，大阪で毎日大阪弁をきいて育つ総てのベビーが，一人のこらず，大阪弁のメロディの人になってゆくのと少しも違いはないのです。
要するに音楽的センス，音楽の才能は生れつきのものではなく，
　「環境に適応して人間形成をしてゆく」
という原則どおり，どの子でも，音痴の人間にも，又優れたセンスの人間にもなり，それは育てる条件によるのだということが明らかになりました。
どの子供でも，生れたときからの育て方によっては，皆，立派に能力のある人間に育つ本質をもって生れているものである。
ということが明らかになることは，人類の世界の為に何と大きな光明でありましょうか。
人間の生れつきの優劣というものはたしかにありましょう。然し，それは何によって決定出来るのでしょうか。
この点について私は次のように考えます。
即ち，環境に適応して生きようとする力，生命活動の優劣，即ち環境に適応する能力の優劣が，人間それぞれの生れつきの優劣であると思います。石器時代の総ての子供達は，一人のこらず石器時代の環境に適応して，石器時代の能力の人になったでありましょうし，今日のベビーでも，もし，今から一万年後の時代の人々の手でその環境で育てられるならば，一万年後の感覚と能力の人間となってゆく本質をもって生れていると思います。
従って，音楽とか文学とか，という特定な才能の素質を生れつき遺伝としてもって生れてくる人間はいない，ということが，人間と能力についての正しい解答であると思うのです。今日アメリカで，「鈴木理論」と言われていることは，実はこのようなことであります。

　「才能教育法」
世界中の子供達，日本中の子供達が，それぞれに自分の国の言葉を，自由自在に話す高い能力の人に育っている事実に気がついて，三十数年前私はとびあがるほど驚きました。
不幸な病人の子供達を除いた総ての子供達は，母国語の才能で何と皆優れた人間能力を発揮しているではありませんか。
母国語の能力の育つ条件，……私はそれを研究しました。世界中の子供達の能力が立派に開発されている教育法が，母国語の教育法であり，最も優れた教育の環境条件ではないでしょうか。
私は，その母国語の教育法を音楽の才能教育に方法化したのです。
才能教育法という私の教育法は，即ち母国語の教育法を手本としたものであります。
音楽以外のあらゆる分野に於いて，心ある教育者が，それぞれの分野に於ける才能教育法を研究し，どの子も育つすばらしい道の開拓に着手せられんことを，全人類の為に心から常々希ってやまないのです。

プログラム

■ 第11回全国大会 ・ 第13回卒業式プログラム

卒業生入場

開会の辞 ……大会委員長／本多正明

挨拶 …… 会長／鈴木鎮一

卒業証書授与

お祝いの言葉 ……名誉会長／徳川義親

卒業生の演奏／協奏曲 ト短調 第一楽章……ビバルディ

卒業生退場

ピアノ独奏／ハンガリア狂詩曲 第二番 リスト……福井洋子

バイオリン合奏

1 協奏曲 第四番 二長調 第一楽章 ……モーツァルト

2 ソナタ ト短調 第一・第二楽章 ……エックレス

3 ソナタ 第四番 第二楽章……ヘンデル

セロ合奏

4 アレグロ……鈴木鎮一

メヌエット……バッハ

白鳥 ……サン サーンス

バイオリン合奏

5 カントリー ダンス ……ウェーバー

6 二つのバイオリンの為の協奏曲 第一楽章……バッハ

諏訪支部合奏団

7 キラキラ星変奏曲

バイオリン合奏

8 コブルガー マーチ ……ジャーマン マーチ

9 協奏曲 イ短調 第一楽章……ビバルディ

10 ユーモレスク……ドボルザーク

11 メヌエット……ボッケリーニ

12 ブーレ……ヘンデル

13 メヌエット 第一番……バッハ

14 無窮動……鈴木鎮一

15 キラキラ星変奏曲……鈴木鎮一編

全員合唱及び合奏

蛍の光……スコットランド民謡

ピアノ伴奏 鈴木静子

Program

■ PROGRAM 11th NATIONAL CONCERT

Greeting …… Chairman M. Honda

Address…… President S. Suzuki

Graduation Ceremony

Words of Congratulation…… Hon. President Y. Tokugawa

Performance by Graduates

Concerto g min. 1st mov. …… Vivaldi

Piano Solo……Yoko Fukui

Hungarian Rhapsody No. 2……Liszt

Violin

Concerto No. 4 D maj. 1st mov. ……Mozart

Sonata g min. 1st 2nd mov. ……Eccles

Sonata No. 4 2nd mov. ……Händel

Cello

Allegro……S. Suzuki

Menuetto …… Bach

Swan …… Saint-Saens

Violin

Country Dance……Weber

Concerto d min. for Two Violins……Bach

Performance by Suwa Gassodan

Twinkle-Twinklle Little Star Variations

Violin

Couburger March ……German March

Concerto a min. ……Vivaldi

Humoresque …… Dvorak

Menuetto …… Boccherini

Bourre……Händel

Menuetto No. 1 ……Bach

Perpetum Mobile …… S. Suzuki

Twinkle Twinkle Little Star Variations ……S. Suzuki

Auld Lange Syne……Scotland folk Song

Piano. Acc. by Mrs. S. Suzuki

プロセス

■全国大会の歩み ／ 大会委員長　本多正明

第11回全国大会及び第13回卒業式を開催するにあたって，今迄の大会の歴史をふりかえってみるのも無意義ではないと思います。

皆様の中に，大会と卒業式の回数にずれのあるのを不思議に思われる方があると存じます。第１回の卒業式は昭和28年に共立講堂で行われ，第２回は翌年青山学院の講堂で挙行致しました。終了後，折角各地の卒業生が一堂に会するこの機会を利用して，全国の生徒も一諸にお祝いをかねた演奏会を開催したいとの意見があり，翌々年の昭和30年に新築の東京都体育館に於いて，第１回の全国大会が開催された次第であります。

才能教育の真価を初めてひろく社会に問うというので，実行委員はもとより全会員の熱意は大変なものでした。当日は，前日まで降りつづいた雨もからりと晴れ上り，皇太子殿下，秩父宮妃殿下，高松宮殿下，同妃殿下，他各宮様方の御来臨の栄を賜り，モーツアルトの協奏曲第５番より演奏が開始されました。

演奏は勿論のこと父兄及び生徒の態度も立派で，内外に素晴しい反響をよびました。この時演奏されたバッハのドッペル・コンチェルトを映画に撮り，これをアメリカのオベリン大学に送ったのが海外への実際を紹介した第一歩でありました。

以来十星霜，やっと念願がかないまして，昨年鈴木会長以下10名の生徒と共に渡米し，16都市に於いて前後実に26回の講演と演奏を行い，文字通りセンセイションを引き起しました。

今度第11回の大会を開催するに当りまして，海外で活躍しておられる諸先生のメッセージと活動状況を紹介出来る事は大変嬉しいと思います。

愈々本会もこれを契機に，世界に向って大きく進歩することは誠に御同慶にたえません。近い将来，海外の生徒がこの大会に参加し共に演奏出来る日の一日も早い事を祈っております。

THE MARCH OF TALENT EDUCATION

The first March of Talent Education National Concert was held in Tokyo in 1955. The occasion was honored by having in attendance His Royal Highness the Crown Prince of Japan and many prominent guests from home and abroad.

During the concert sound filming was made of various selections played by the young violinists. A film of "Double Concert For Two Violins" by Bach was sent to Professor Cook of Oberlin College, Ohio, USA. Professor Cook arranged for an audition of the film before the String Teachers Association of the State of Ohio. The performance was received most enthusiastically and due to circulation of the film interest in early talent education spread throughout the United Stated.

In March of 1964 our dream of having our young violinists visit the United States was fulfilled. We were invited to give a concert at the M. E. N. C. in Philadelphia, Pennsylvania. Arrangements were made for our children while in the United States to give a series of concerts and auditions across the country. We gave auditions in the University of Washington, North Western University, University of Southern Illinois, New England Conservatory of Music, Juilliard, Oberlin College, University of Wayne, University of Wichita, University of Arizona, Los Angeles State College, C. M. E. A. and Honolulu. One of the highlights was giving a concert in the United Nations Auditorium, New York city. On the tour we gave 26 performances in 16 major cities within a period of three weeks.

We are pleased to be able to report that the performances of our young violinists aroused wide interest in the United States and widespread and serious research related to Talent Education Programs for the young people has been initiated.

This will be the 11th National Concert in Japan for the promotion of young talent. About 1500 children will assemble to play, their age ranging from 3 to 15 years. Now that our movement of March of Talent Education has taken on international importance our children will be encouraged to play with greater joy and zeal.

We hope that in the near future children of various countries of the world will join with us and play in these National Concerts.

Masaaki Honda M. D. Ph. D. Director T. E.

ニュース

■アメリカの音楽教育者の反響

□**ポール・ロランド** / Paul Rolland
全米絃楽教育者会議会長・イリノイ大学教授

□**ロバート・クロットマン** / Robert Klotman
全米絃楽教育者会議副会長

□**ジョーン・ケンドール** / John D. Kendall
南イリノイ大学教授

□**クリフォード・クック** / Clifford Cook
オベリン大学教授

□**ジーネット・スコット** / Jeanette Scott
オレゴン教育大学助教授

■アメリカで活躍の先輩

●山田紘子

1963年の秋，クック教授の片腕となってオベリン大学に才能教室を設置３才から５才の児童30名を指導しております。昨年渡米の日本の児童とワーナーコンサートホールで合同演奏を行い大好評でした。また，同大学のオーケストラの一員として活躍中です。

●鳥羽尋子

1964年９月渡米，オベリン大学に籍をおくと共に才能教室の指導を担当しております。

●本多優子

1964年９月渡米，ワシントン大学の音楽部に入学。ソーコール教授のお手伝いとして同大学生に、またホーリーネームアカデミーではシスターアネラと共に３才から12才の子供の才能教育をしております。

■ポール・ロランド

私は，鈴木先生を大変尊敬しております。昨年アメリカで行われた児童の演奏は，忘れる事ができません。その結果，この教育に対して，アメリカでは大変な熱意をひき起し，各地にこの方法を実行しつつある先生が多くおります。私は，ケンドール教授と密接な連絡をとりつつ，米国内でこの教育法を真剣に研究したいと努力しております。

我々バイオリニストは，鈴木氏が，彼の理論を，バイオリンで実行した事を幸せと思わなければなりません。児童心理学者，教育学者はこの考えが，他の分野でも活用出来ると言っております。従って鈴木氏の実際と，これ等の科学者及び教育者の理論とは全く一致しております。

素晴しく教育された子供の立派な演奏や態度は，日本の国や両親にとって誇りであります。音楽を介して，お互いをよりよく理解し，個人や国の友情を深めることは，素晴しいことです。

＜全米絃楽教育者会議会長・イリノイ大学教授＞

I am a great admirer of Mr. Suzuki. His unforgettable programs with the group of his students aroused the greatest enthusiasm in America. There are teachers in all over America who begin to adapt his approach. I am working closely with Mr. Kendall and we hope to initiate a nation wide program of serious research that relates to your Talent Education program.

We violinists should feel fortunate that Mr. Suzuki worked out his principles on the violin as a medium. Child psychologists, educators in America express the opinion that his principles are valid in other fields as well, and that the success of Mr. Suzuki's approach is consonant with the theories of these scientists and educators.

Your wonderfully trained children, their fine playing and manners were a credit to your nation and to the parents of these children. It is wonderful that through the medium of music we can get to know each other better and become better friends individually as a nation.

Prof. Paul Rolland
Pres. American String Teachers Asso.

■ ロバート・クロットマン

鈴木鎮一氏の衝撃

鈴木氏と児童の来訪によって知り得た主なることは，子供達が非常な能力を蓄積していると言うことである。彼はまた，子供が正しく教育されるならば無限の可能性を持っていることを証明した。

彼は子供の音楽能力を育てるには，生れつきの才能と称されるものより，その環境の方が遙かに大切であると結論している。

もう一つ成功の大切な要素は，子供に対する非常な愛情と献身である。

＜全米絃楽教育者会議副会長＞

Several implications can be deducted from Shinichi Suzuki's recent tour of the United States with ten of his students. Most significant of these is his demonstration of the tremendous potentiality inherent in all children. He proves that when properly motivated and guided, they have unlimited possibilities for learning.

He also infers that environmental factors are far more important in the musical growth of a child than so-called "talent." Since his program of education begins before it is even possible to consider measuring a child's talent, his results seem to bear out this contention.

Since the Suzuki concepts conflict somewhat with current trends in music education, educators must re-assess their programs if they are to produce musicians on a mass scale with comparable results. The idea of beginning at the cradle with complete involvement of the parent might seem almost impossible; but we can certainly accept Suzuki's premise that you cannot begin early enough to surround a child with fine music, and that he may begin violin training at an age whan he can comfortably hold a violin commensurate with his physical growth.

Other important factors in Mr. Suzuki's success as the "Pied Piper of Fiddleland" are his affection for and devotion to children. His sincere ambition to help Japanese children find an emotionally satisfying, aesthetic expression in violin playing motivated development of his plan . . . a plan requiring much patience and understanding! Teachers who would institute similar programs, must have comparable devotion, dedication, and patience, as well as a firm belief in the limitless capability of young children.

Prof. Robert Klotman
Director of Music: Detroit, Michigan Public Schools.

■ ジョーン・ケンドール

親愛なる才能教育の先生，御両親，そして生徒の皆様。皆様は今再び偉大な音楽を楽しく演奏する為集っていらっしゃいます。この年毎に行われる大会は，単に日本のみならず米国においても，この運動からインスピレーションを受ける意味で大変重要です。

私はこの素晴しい日の成功と，会の今後の発展を心から願っております。

＜南イリノイ大学教授＞

Dear Teachers, Parents, and Students of Talent Education:

Once again you are gathering together for a joyous performance of great music. This annual occasion is of great significance not only to you in Japan, but also to the many in Ameirica who look to the Talent Education movement for inspiration. May I wish you every success on this great day, and also in the months ahead.

John D. Kendall
Prof. String Development

レター

■ クリフォード・クック

才能教育運動の思想の中には，全く新しいもの，或いは正統的でないものは何もない。けれどもその運動のすべてが新しく，且つ今迄とは異っている。この逆説は，日本への訪問客が立ち向かわされるものの一つである。

東西両洋の混合は，いつも理解は容易ではないが，しかし魅力的な結果をつくり出す。ごく幼い時に，刺激的な音楽環境をととのえること，聴力を重視すること，子供達がこのようなことに積極的になるよう勇気ずけること，これらの実例は多く，又数百年にわたって見受けられる。モーツアルトやハイフェッツをごらんなさい。その他多くの人を天才と私達は呼んでいます。彼等の親達は，こういった手順を正しくふんではいないでしょうか。

母国語を話すようになったすべての子供達は，今や才能教育と名付けられる方法によってそれが可能になったのだ。鈴木鎮一氏が言われるように，子供達は正式に書かれた教則本を使うことによってではなく，彼の母親や家族のものまねをするという自然の方法をもつことによるのである。（以下略）

＜オベリン大学音楽部長＞

Nothing is really new or unorthodox in the ideas underlying the Talent Education (Saino-Kyoiku) movement; yet the whole movement is new and unorthodox. This paradox is one of many confronting a visitor to Japan. The mixture of East and West produces fascinating results, net always easy to comprehend.

To start planned education at a very early age, to provide a stimulating musical environment, emphasizing the ear, encouraging maximum participation by the child–examples of this are numerous, and they span the centuries. Consider Wolfgang Mozart, Jascha Heifetz, and all the others we call prodigies. Did not their parents follow exactly these procedures?

Moreover, has not every infant who has learned to speak his mother tongue (well named !) done so by the method now labeled "Talent Education"? As Mr. Shinichi Suzuki points out, a child learns to speak not by using formal, written etudes, but through the natural method of imitating his mother and other members of his family.

By applying to violin playing the principles used in teaching children to speak their native language, Mr. Suzuki has proved that much of what we have assumed to be inborn genius in prodigy-violinists has actually been a rather common talent that has been stimulated and developed by a favorable environment from a tender age. In eighteen years of applying the principles of Talent Education, Mr. Suzuki and his teachers have proved with thousands of young children that *talent is common, favorable environment is not.* The responsibility lies with parents and teachers.

Listening to the young Japanese children play, one soon forgets their age, forgets that they are playing music performed elsewhere by high school and college students. There is an alert vitality and complete involvement in what they do. (Mr. Suzuki says he wants not music education, but *musical* education.) From the beautiful tone many of the children produce, from the intensely musical quality of their performance, and from the sweet and pure expression they have, one gets an overwhelming impression of delight. Anyone not touched by such children and their playing has a hard shell indeed !

By Clifford Cook
Prof. Oberlin College

■ ジーネット・スコット

才能教育のすべてのお友達に，心からのお祝いを申し上げます。

1964年の夏は，私の人生のハイライトとして忘れることが出来ません。日本において多くの立派な先生にお目にかかり，素晴しい演奏を聞かせて頂き，生涯の友人を多く持ち得た気持です。

オレゴンにおいて私は，多くの人々に，日本は世界のバイオリンの首都だと話します。鈴木先生の才能教育は，米国における絃の指導者にとって，大きな魂の泉となっております。

私は将来，再び日本を訪問して，皆様が如何にして此の様な素晴しい成果をなし得たかを，勉強したいと思います。

＜オレゴン教育大学助教授＞

To all my friends in Talent Education.

The summer of 1964 will always be remembered as one of the biggest highlights of my life. I met so many outstanding teachers, and heard such wonderful playing by the students in Japan. I feel as if I have many friends for life in your wonderful country.

Here at home in Oregon, I tell others that Japan is now the "violin capital" of the world. Mr. Suzuki with his Talent Education has been a great source of inspiration to string teachers in America.

I hope at some time in the future to be able to return to Japan to learn more about how you achieve such outstanding results in this work.

Prof. Jeanette Scott
Assistant Prof. of Music
Oregon College of Education.

レター

海外評価

■ NEWS CONCERNING TALENT EDUCATION ABROAD

■ ニューヨークタイムズ／ニューズウィーク／タイムの評価

Article from The New York Times
Feb. 28, 1964.

JAPANESE TUTORS YOUNG VIOLINISTS

Virtuosos, 5 to 12, Will Tour United States Next Month

By THEODORE STRONGIN

Ten Japanese violin virtuosos, from 5 to 12 years old, will make a cross-country concert tour of the United States early next month.

They were hand-picked from thousands of young Japanese violinists, who, starting at birth, have taken part in the giant Talent Education Program developed over the last 30 years by Shinichi Suzuki, the violinist.

Some foreign observers who have heard Mr. Suzuki's disciples, sometimes as many as 1, 500 strong playing Bach or Vivaldi concertos in unison, call them the wonder of the musical world.

The ten violinists and Mr. Suzuki will play here at the Juilliard School of Music on March 12 at 1 P. M. On the same day, at 8 P. M., they will appear in the Westchester County Center with the Westchester Junior Symphony, an aggregation of veterans through the eighth grade.

The Talent Education Program is beginning to create a stir far beyond the boundaries of Japan. When Pablo Casals heard a Suzuki group in Tokyo, he dashed to the stage and hugged the children, shouting "Bravo ! Brave ! "

Members of the International Music Teachers Assembly, meeting in Tokyo last summer, were overwhelmed by the sight and sound of 3, 4 and 5-year-olds playing violin together, Suzuki style.

In a speech, Mr. Suzuki explained his system to the teachers. "Talent education merely applies the method of learning one's native language to education in music," he said.

His development program enlists the ear flom infancy on. The record player is the first important learning device and the parent is the first teacher.

"A masterpiece by Bach, Mozart or Schubert, for example, is selected, and the one selection is played every day for the baby. If the record is played every time the baby starts to cry, it will eventually reach the point where it will become quiet the moment the music begins."

Only the one selection must be used, Mr. Suzuki emphasized. "After about five months, any baby thus exposed will clearly learn the selection." Then another selection is added. "There are some babies that have been brought up by listening to a concerto [one movement only] and have learned the music well."

At 3, Mr. Suzuki's followers start to play on a quarter-size violin. They do not learn to read music or use books until much later.

Mr. Suzuki does not believe that musical talent is inborn. "Children of every land develop into adults with a very high ability to talk fluently," he said.

Article from Newsweek
Mar. 23, 1964.

Fiddling Legions

Ten tiny Japanese children, ranging in ago from 5 to 14, played Bach and Vivaldi with a skillful authority that drew bravos from a highly critical audience of Juilliard students and faculty. If their applause was tinged with sentimentality (when the children's teacher, Prof. Shinichi Suzuki, stepped onstage to tune a 5-year-old's quarter-size violin, the audience sighed), it was nonetheless wholly deserved. "This is amazing." said Juilliard violin Prof. Ivan Galamian. "They showed remarkable training, a wonderful feeling for the rhythm and flow of the music."

Playing without a conductor and using no scores, the youngsters were a living testimonial to the validity of Suziki's unorthodox teaching method. He starts his children at about 3, but the first lessons are for the child's mother. She comes once a week with her youngster, and after three months has normally progressed to "Twinkle, Twinkle Little Star." "By that time," Suzuki explains in a mixture of German and English as expressive as his thin face, "the child has watched the mother play and wants to imitate her." Only then is the pupil given a pint-size violin. Through exposure to classical recordings and constant repetition, the child is ready to tackle simple Bach gavottes within a year. The 150, 000 children Suzuki's system has trained in 30 years are far from robots. They combine virtuosity with feeling so successfully that when Pablo Casals heard a Suzuki recital in Tokyo, he rushed to the stage, shouting "bravo," and hugging the children.

Sensitivity : Although about 5 per cent of Suzuki's students make careers in music, the 65-year-old professor insists : "I just want to make good citizens. If a child hears good music from the day of his birth, and learns to play it himself, he develops sensitivity, discipline, and endurance. He gets a beautiful heart."

Suzuki thoughtfully crinkled a few of the paper-wrapped candies he carries for his musicians. "If nations cooperate in raising good children, perhaps there won't be any war."

Suzuki has done more than revolutionize violin teaching in Japan. Oberlin music Prof. Clifford Cook says : "What Suzuki has done for young children earns him a place among the benefactors of mankind, along with Schweitzer, Casals, and Tom Dooley."

From the article on "TIME" issued on Aug. 24, 1959.

Playing by Ear

"Won't you play a piece for our American visitor?" asked the teacher. Shinichi Suzuki's violin pupils scurried into formation against the walls of a bare Japanese room, swung their instruments under their chins, and played Bach and Handel minuets with surprising style. "It was really amazing," said the visitor, John D. Kendall, music director of Ohio's Muskingum College. "I was so touched I could feel tears welling up in my eyes." It was amazing indeed. The 30 musicians he had heard were only four years old—and they were students at the Matsumoto School of Music, which is the talk of Japan's music world for its unorthodox methods. Matsumoto's pupils dispense with all scales. They learn by listening and repeating, as a child learns to converse.

Founder-Director Suzuki hit on his system by watching babies imitate their parents' speech. A concert violinist who studied at Berlin's Higher Institute of Music, Suzuki was on the staff of Tokyo's Imperial Music School when a mother brought her four-year-old son for violin lessons. Too young, said Suzuki at first. Then he discovered that the youngster had acquired a working vocabulary of 1, 500 words by listening to his mother repest them, decided that "it should be the same with music." He experimented with the four-year-old, finally started a school in his wartime home of Matsumoto, IIO miles northwest of Tokyo.

Soft Like a Mouse. Suzuki's method is simple sound repetition. His youngsters get accustomed to the sound of a violin by sitting in a classroom where advanced students practice. The beginners learn to recognize and hum simple tunes, are made to associate the melodies with the movement of a bow and fingers. No technical terms are used; differences are conveyed through analogies —"Loud is like an elephant, " "Soft is like a mouse." In the third month of school (two 30-minute sessions a week), the tots are guided into games that teach good playing posture. Finally, the children get violins and are taught to play the melodies they already know. "Never force children," warns Suzuki. "Persuade them."

Today, at 60, Teacher Suzuki personally coaches some 20-odd preconservatory students, supervises a nationwide network of extension classes with a total enrollment of 4, 800 students. Suzuki tries to limit his pupils to children under twelve, encourages most to go on to more advanced schools when they reach their teens. By then, the youngsters have mastered all ten manuals in the three-part course. After the first (Book 3, age 6) part, a student is expected to play simplified Bach gavottes; after the second (Book 7, age 8), Bach's *Concerto in A Minor;* after the third (Book IO, age IO), Mozart's *Concerto in A Major.*

Play for Pleasure. The method works so well that quite a few of Suzuki's students go on to become concert violinists. His very first pupil, Violinist Toshiya Eto, playedat Carnegie Hall in 1951, is now an instructor at Philadelphia's Curtis Institute of Music. Another graduate, Koji Toyoda, 25, won Geneva's *Concours International d' Exècution Musicale* last year, is studying in Brussels with famed Violinist Arthur Grumiaux. But that, says Suzuki, is not his biggest goal. "My object is not to mass-produce concert artists. I just want to have as many people as possible enjoy playing the violin for their own pleasure."

才能教育研究会／支部・教室のお問合せは

□本　　部／長野県松本市旭町1463の5　Tel 松本 (2) 1976

□東京事務所／東京都中野区駅前3ニュー・グリーンビル　Tel東京(381)2603・(383)0445

□東海事務所／愛知県豊橋市吉田町148　Tel 豊橋 (3) 1218